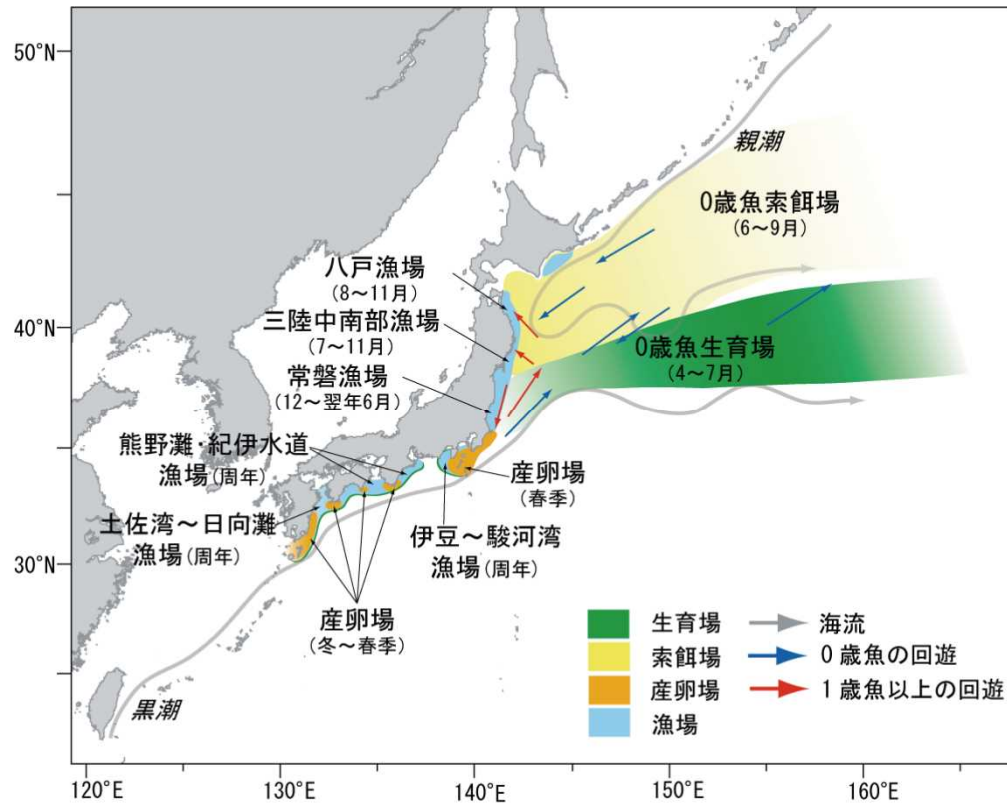




マサバ ゴマサバ
平成30年度資源評価結果

ゴマサバ太平洋系群 生物学的特性

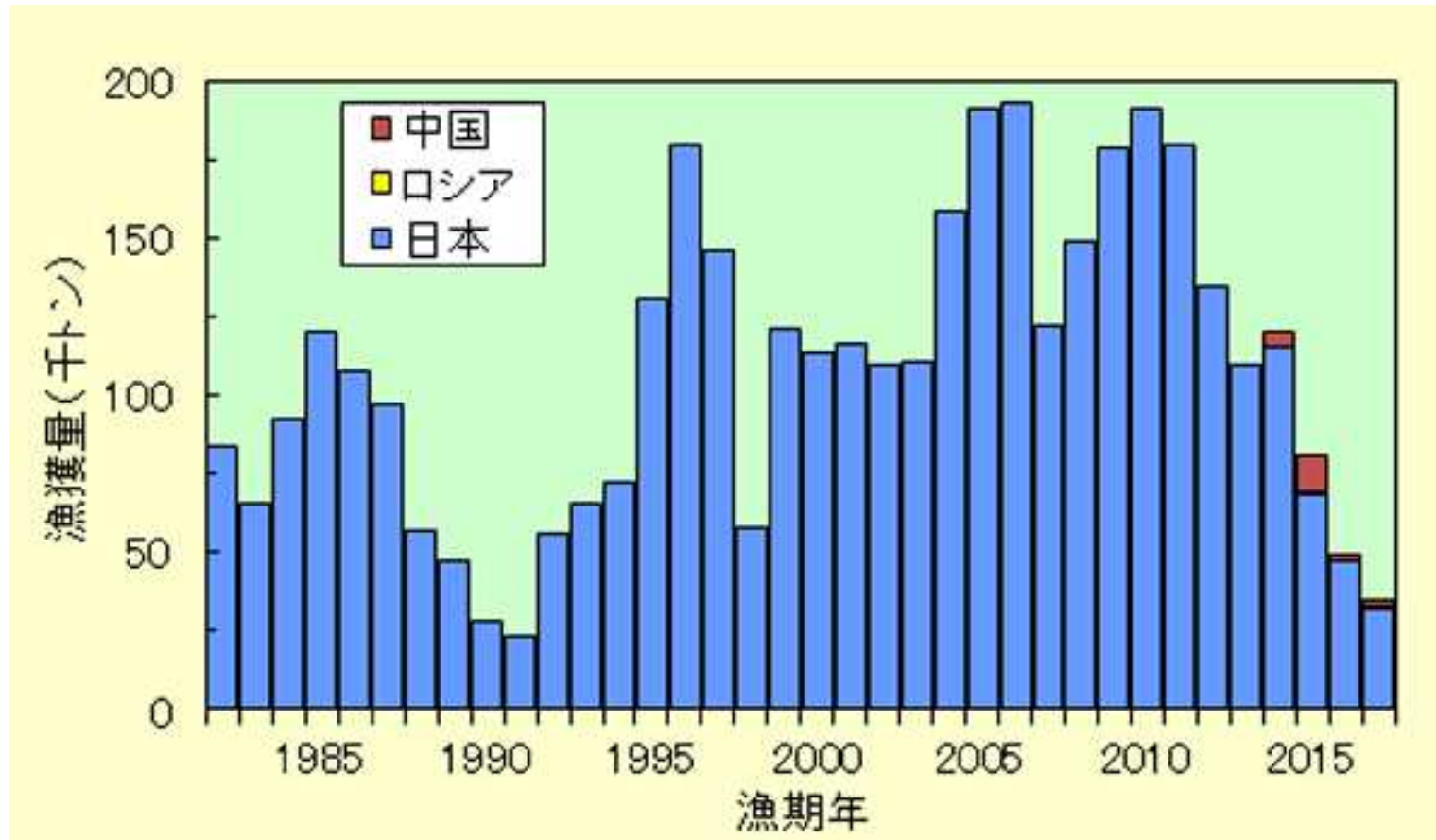
ゴマサバ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図



生物学的特性

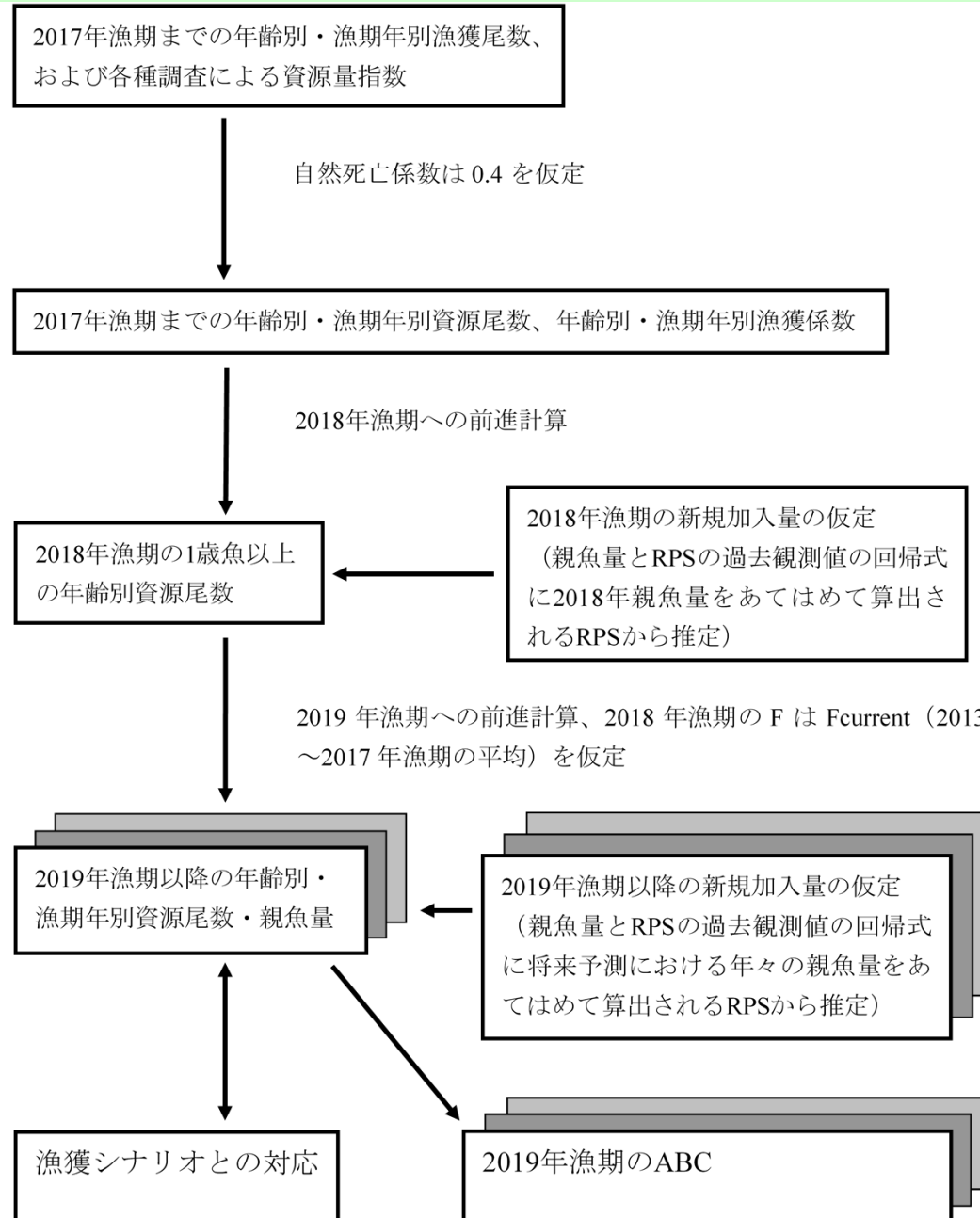
- 寿命：6歳程度
- 成熟開始年齢：2歳 (100%)
- 産卵期・産卵場：12～翌年6月、伊豆諸島周辺以西の黒潮周辺域
- 食性：仔稚魚期には浮遊性甲殻類、イワシ類のシラスなど、幼魚期以降は浮遊性甲殻類、小型魚類、イカ類など
- 捕食者：幼魚期まではカツオなどの大型魚類等

漁獲の動向

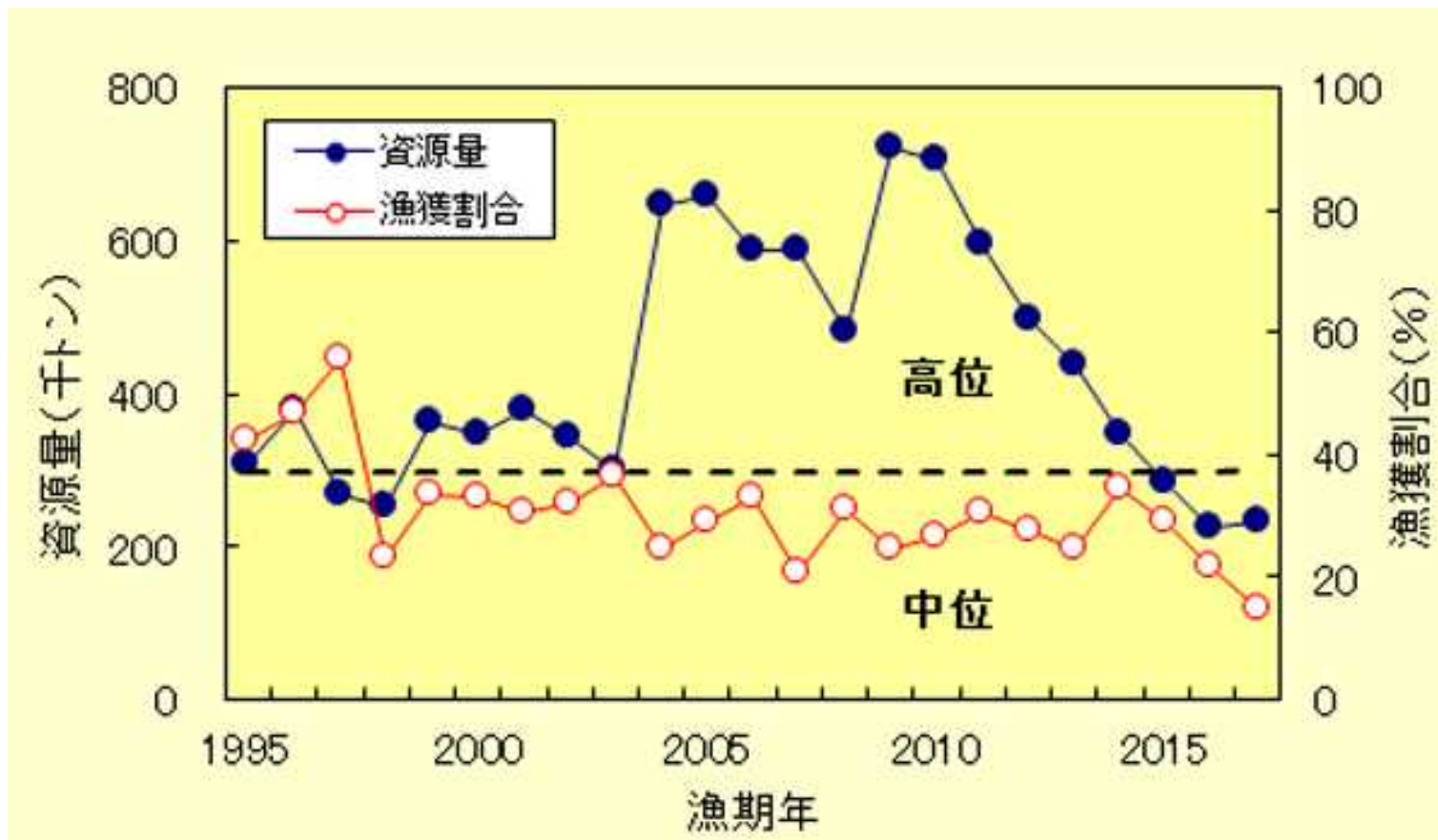


- 2011年漁期以降減少傾向
2017年漁期の我が国漁獲量 3.2万トン

資源評価の流れ

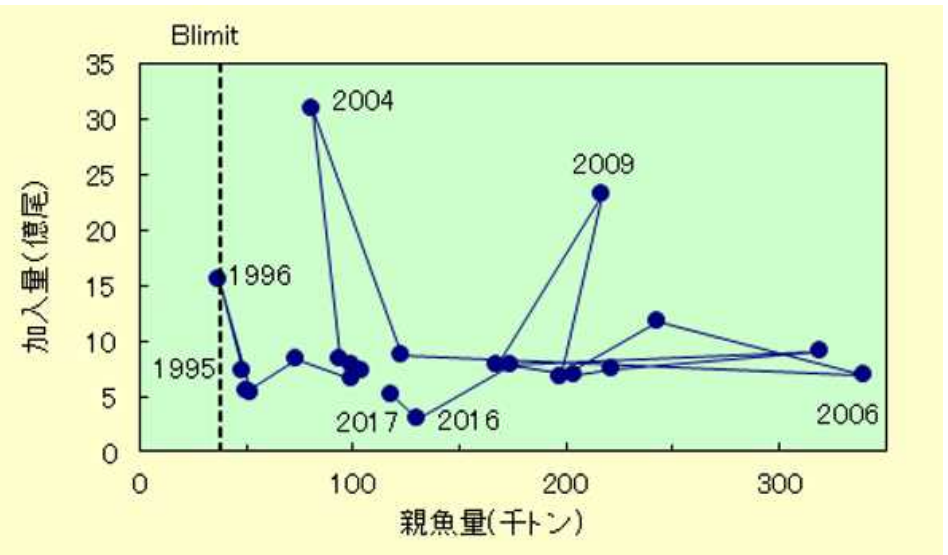
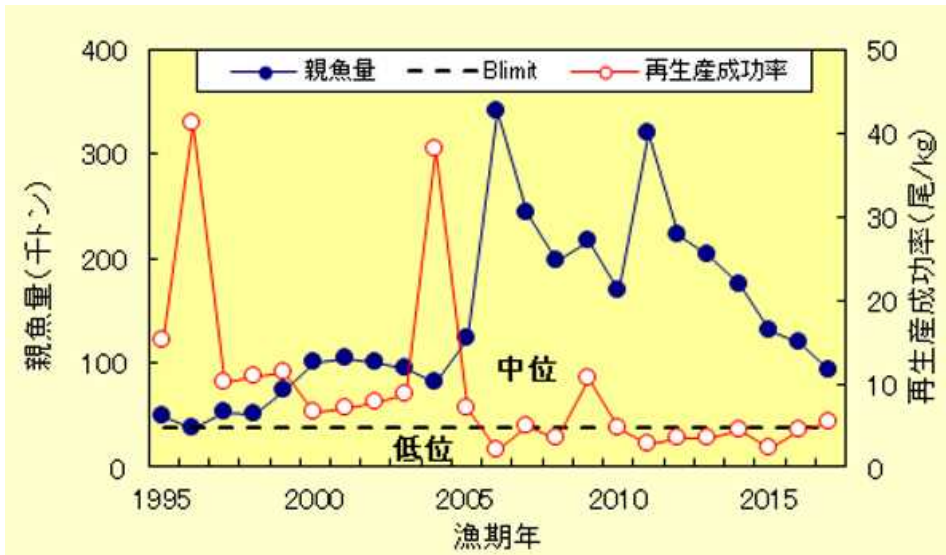


資源の動向①



- 資源量： 2009・2010年は70万トン以上の高い水準にあったが、2011年以降減少、動向(2013～2017年)は減少
2017年は23.1万トン

資源の動向②



※水準区分 低位／中位: Blimit (親魚量3.8万トン)
 中位／高位: 太平洋北区での漁獲が増加する資源量水準 (30万トン)

- 親魚量: 2017年は9.2万トン
- Blimit: 1995年以降極端な加入量低下は見られないことから、この期間の最低親魚量 (3.8万トン、1996年)
- 2017年の親魚量はBlimitを上回る中位水準

資源評価のまとめ

- 7～翌年6月の漁期年単位でコホート解析により資源量を推定した。
加入量および親魚量を反映すると考えられるそれぞれの指標値を用いてチューニングを行った。
- 1996、2004、2009年に卓越して加入量の高い年級群が発生し、2009・2010年の資源量は極めて高い水準に達したが、2011年以降は減少傾向。
- 2017年の資源量は23.1万トン、親魚量は9.2万トンでBlimitを上回っている。
- 資源水準は中位、動向は減少。

2019年ABC表

資源量(2019)=338千トンを仮定、親魚量(2017)=92千トン、Blimit=38千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target /Limit	2019年 漁期ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状の F値からの 増減%)	2024年の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2024年に 2017年 親魚量を 維持	2024年に Blimitを 維持
現状の 漁獲圧の維持 (Fcurrent)	Target	66	19	0.38 (-20%)	189 (89~359)	89	100
	Limit	79	23	0.48 (±0%)	156 (70~317)	75	100
親魚量の増大 (F30%SPR)	Target	68	20	0.40 (-17%)	183 (85~356)	86	100
	Limit	81	24	0.49 (+3%)	150 (66~289)	72	100
親魚量を Blimit以上で維 持 ・漁獲量の増加 (F20%SPR)	Target	95	28	0.61 (+27%)	121 (51~239)	52	97
	Limit	112	33	0.76 (+58%)	89 (34~169)	32	86